

今日のキーワード 米国FOMCの『ドットチャート』は20年で利上げ停止を想定

米連邦準備制度理事会（FRB）は、年に8回開催する米連邦公開市場委員会（FOMC）のうち3、6、9、12月に開く会合で、FOMCメンバーによる米国経済と政策金利の見通しを公表しています。米国の政策金利はフェデラルファンド（FF）レートですが、FOMCメンバーが予想するFFレートの水準を“点（ドット）”の分布で表現したグラフは『ドットチャート』と呼ばれ、将来の政策金利の動きを予測するうえでの判断材料とされます。

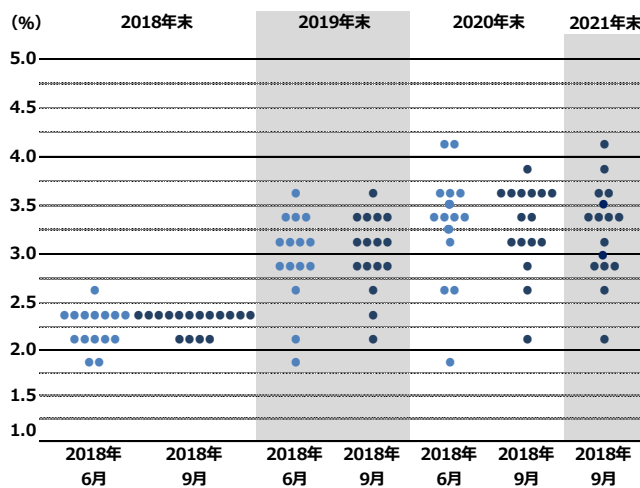
ポイント1 9月開催のFOMCで0.25%の利上げを決定 全会一致の決定

- FRBは9月25日、26日に開催したFOMCで、市場の予想通りFFレートの誘導目標レンジを0.25%引き上げ、2.00%～2.25%とすることを決定しました。全会一致の決定です。

ポイント2 18年は計4回の利上げを予想 19年の利上げ予想回数は3回

- 『ドットチャート』を見れば、FOMC参加者が予測するFFレートの分布がわかります。その中央値は、18年末が2.38%、19年末が3.13%、20年末が3.38%、景気を刺激も抑制もしない、いわゆる中立金利に相当する長期の均衡値は3.00%でした。
- 1回当たりのFFレート引き上げ幅を0.25%とすると、利上げの回数は18年が4回（これまで既に3回の利上げを実施）、19年が3回、20年が1回となります。今年6月開催のFOMCで、『ドットチャート』が示唆した回数から変化はありません。
- しかし、19年、20年とも中央値以上の利上げを予想するドットが僅かですが増えています。景気見通しへの自信が高まったことが背景にあるのではないかと考えられます。

【FOMCの最新ドットチャート】



(注) 横軸はFOMCの開催年月。
(出所) FRBの資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 20年で利上げの打ち止めを想定

- 今回から新たに21年末の見通しが加わっています。それによれば、ドットの中央値は3.38%と、20年末対比で横ばいでしたが、小幅な利下げを想定するドットが多く見られます。20年で利上げを打ち止め、21年は政策金利を中立金利の水準（3.00%）に戻す動きも想定されているようです。
- 利上げの継続により、長期金利には上昇圧力がかかると見られます。もっとも、インフレが抑制された状態が続くと予想されることから、利上げの速度は緩やかと考えられ、政策金利の着地点も3%前後となる見通しです。この点を踏まえると、長期金利の上昇も小幅なものにとどまりそうです。

ここもチェック! 2018年9月27日 米国の金融政策は利上げを継続（2018年9月）
2018年9月10日 概ね良好な内容となった米国の雇用統計（2018年8月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。